

# 街を行く

第154回 三田 Mita

## ブランドが街を作っています



慶応大学、東京タワー、三井クラブが三田の街のカラーをつくり、本来地味なエリア特性を乗り越え、きらびやかなブランドを形成した

小生、田町に10年ほど住んでおり、休みの日には近隣を歩くことがよくあります。散歩で身体を動かす目的であり、街歩きで五感を働かせるためではないのですが、道すがらふと「この街を題材にしてもおかしくないよな」と思い立ち、今回「街を行く」の流儀で三田を歩き直してみたのです。行動範囲は田町駅の北側、三田通りに沿って北上し、赤羽橋交差点まで歩いてみました。

通りを進みはじめると、右手にそびえるのが「慶応義塾大学」、三田と言えばみな大抵ここを思い浮かべる名所です。学問や政財界で多くの著名人を輩出、学生スポーツ界でも雄として君臨しています。小綺麗でお行儀よい優等生といったブランドが社会に浸透し、その強いイメージが個々学生さんのキャラクターや魅力すら覆っている感が否めません。

そう思いつつ、三田通りと国道一号線をつなぐ「仲通り」に入ると、飲食店や居酒屋ひしめく夜のキャンパスが見えてき

ます。賑やかな学生さんたちを眺め「意外とバンカラなところもあるんだな」「今も昔も学生は元気がいいね」と感じ、少しほっとした次第です。

慶応三田キャンパスを抜けて東京タワー方面に向かうと、ドラマのワンシーンのようなきらきらした光景が広がり、さらに赤羽交差点手前を右折すると、お屋敷街「綱町」が現れてきます。結婚式や会食が催される「綱町三井クラブ」が有名ですが、最近は凄い倍率で購買希望者が殺到した大規模高級マンション開発が注目されています（個人的には、落ち着いた雰囲気のイタリア大使館周辺がお気に入りです）。

綱町もブランド先行の感じがします。三田は本来、下町風情が残る渋めのエリアなのですが、慶応、東京タワー、三井クラブという存在がひときわ光るブランドの街になりました。それが悪いと言っているわけではありません。ブランド力がヒト・モノ・カネを引き寄せ、街の経済を強くするからです。そして、慶応

と綱町がその一端を担っているのは、疑いのない事実でしょう。

街をみて、考えたあと、少しレトロな仲通りの居酒屋に立ち寄りジョッキを傾けるのもオツです。どこであれ、学生の多い街は良いですね、過去の自分にタイムトリップさせてくれますから。純粋に人生を楽しんでいたあの時は何だったのか考えるべく、今度はまた違った雰囲気の学生街、早稲田も散策したくなってきました。それぞれの違いを見つける意味で楽しめるかも知れません。

### 南 一弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。